作成日： 2004/01/22
改訂日： 2024/10/08

安全データシート

1. 化学品及び会社情報

製品名 ： メタンスルホン酸

会社情報

会社名 ： 関東化学株式会社
住　所 ： 〒103-0022 東京都中央区日本橋室町 2-2-1
担当部門 ： 試薬事業本部　企画管理部　資料課
電話番号 ： (0120)260-489
ＦＡＸ番号 ： (03)3241-1047
メールアドレス ： BC32@kanto.co.jp

整理番号 ： 25628
推奨用途 ： 試験研究用
使用上の制限 ： 推奨用途以外で使用する場合は専門家の判断を仰ぐこと。

2. 危険有害性の要約

GHS 分類

健康有害性	急性毒性（経口）	区分 3
	急性毒性（吸入：粉じん、ミスト）	区分 4
	皮膚腐食性／刺激性	区分 1
	眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性	区分 1
	生殖毒性	区分 2
環境有害性	水生環境有害性　短期（急性）	区分 3

絵表示



注意喚起語 ： 危険

危険有害性情報 ： 飲み込むと有毒
重篤な皮膚の薬傷及び眼の損傷
吸入すると有害
生殖能又は胎児への悪影響のおそれの疑い
水生生物に有害

注意書き

安全対策 ： 全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
ミスト／蒸気を吸入しないこと。
取扱い後は手、前腕および顔をよく洗うこと。
この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。
屋外又は換気の良い場所でだけ使用すること。
環境への放出を避けること。
保護手袋／保護衣／保護眼鏡／保護面を着用すること。

応急措置 ： 飲み込んだ場合：直ちに医師に連絡すること。
飲み込んだ場合：口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。
皮膚（又は髪）に付着した場合：直ちに汚染された衣類を全て脱ぐこと。
皮膚を水で洗うこと。
吸入した場合：空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させる

こと。
眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
ばく露又はばく露の懸念がある場合：医師の診察／手当てを受けること。
直ちに医師に連絡すること。
気分が悪いときは医師に連絡すること。

保管 ： 施錠して保管すること。

廃棄 ： 内容物／容器を国際、国、都道府県又は市町村の規則に従って廃棄すること。

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別 ： 物質
別名 ： メチルスルホン酸、スルホメタン

化学名	濃度（%）	化学式	官報公示整理番号		CAS RN
			化審法番号	安衛法番号	
メタンスルホン酸	≥ 98	CH4O3S	2-1582	既存化学物質	75-75-2

4. 応急措置

応急措置

吸入した場合 ： 直ちに新鮮な空気の場所に移し、鼻をかませ、うがいをさせる。必要に応じて医師の処置を受ける。

皮膚に付着した場合 ： 直ちに多量の水で洗い流し、速やかに医師の処置を受ける。

眼に入った場合 ： 直ちに流水で 15 分間以上洗い流し、眼科医の処置を受ける。

飲み込んだ場合 ： 水で口の中を洗浄し、コップ 1-2 杯の水または牛乳を飲ませる。直ちに医師の処置を受ける。無理にはかせてはならない。

応急措置をする者の保護 ： 救助者はゴム手袋と密閉ゴーグルなどの保護具を着用する。

5. 火災時の措置

適切な消火剤 ： 水、粉末・二酸化炭素、乾燥砂、耐アルコール性泡消火器

使ってはならない消火剤 ： 普通の泡消火器

消火方法 ： 速やかに容器を安全な場所に移す。移動不可能な場合は、容器および周囲に散水して冷却する。
消火作業は、風上から行う。
初期の火災には、粉末・二酸化炭素、乾燥砂などを用いる。大規模火災の際には、耐アルコール性の泡消火器などを用いて空気を遮断することが有効である。

消火を行う者の保護 ： 消火作業の際は、必ず保護具を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具および緊急時措置

一般的措置 ： 作業の際は適切な保護具を着用し、漏洩した液が皮膚に付着したり、蒸気を吸入しないようにする。風上から作業し、風下の人を退避させる。付近の着火源となるものを速やかに取り除く。露出した場所の周辺にロープを張るなどして関係者以外の立ち入りを禁止する。

環境に対する注意事項

環境に対する注意事項　：　流出した製品が河川などに排出され、環境へ影響を起こさないように注意する。大量の水で希釈する場合は、汚染された排水が適切に処理されずに環境へ流出しないように注意する。

封じ込め及び浄化の方法及び機材

封じ込め方法　：　漏洩した液はけいそう土などに吸着させて、空容器に回収する。漏洩した場所は水酸化カルシウム、炭酸ナトリウムなどの水溶液を用いて処理し、多量の水を用いて洗い流す。

二次災害の防止策　：　付近の着火源となるものを速やかに取り除くとともに消火剤を準備する。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策　：　皮膚に付けたり、蒸気を吸入しないように適切な保護具を着用する。火気に注意する。
作業場所の換気を十分行う。

安全取扱注意事項　：　みだりにエアロゾル、蒸気が発生しないように取扱う。
酸化剤と接触させない。

保管

安全な保管条件　：　容器は密栓して冷暗所に保管する。

安全な容器包装材料　：　ガラス、ふっ素樹脂。

8. ばく露防止及び保護措置

管理濃度	設定されていない
産衛学会 許容濃度	設定されていない
ACGIH TWA	設定されていない

設備対策　：　取扱いについては、できるだけ密閉された装置、機器または局所排気装置を使用する。

保護具

呼吸用保護具　：　必要に応じて防毒マスク（酸性ガス用）を着用する。

手の保護具　：　不浸透性保護手袋

眼の保護具　：　ゴーグル型保護眼鏡

皮膚及び身体の保護具　：　保護衣（長袖作業衣）、保護長靴、保護服等

9. 物理的及び化学的性質

物理状態　：　液体

色　：　無色-淡橙色

臭い　：　刺激臭

pH　：　強酸性

融点　：　20 ° C

凝固点　：　データなし

沸点　：　167 ° C (13.3 hPa)

引火点　：　233 ° C

自然発火点　：　535 ° C (1010 hPa)

分解温度　：　＞ 215 ° C

可燃性　：　引火性

蒸気圧	:	0.0475 Pa (21℃)
相対密度	:	データなし
密度	:	1.478 - 1.484 g/cm³ (20℃)
相対ガス密度	:	データなし
溶解度	:	水: 1000 g/L (20℃) 有機溶剤: ヘキサン(0%, 26-28℃)、ベンゼン(1.5%, 26-28℃)、トルエン(0.38%, 26-28℃)
n-オクタノール/水分配係数 (log Pow)	:	-2.38
爆発限界 (vol %)	:	11.4 - 24.3 vol %
動粘性率	:	7.83 mm²/s (25℃)
粒子特性	:	データなし

10. 安定性及び反応性

反応性	:	鉄、鋼、真鍮、銅、鉛などの金属を腐食する。 酸化剤と接触すると反応することがある。
化学的安定性	:	通常条件で安定である。
危険有害反応可能性	:	通常の使用条件下では安定。
避けるべき条件	:	日光、熱。
混触危険物質	:	酸化剤、アルカリ性物質。
危険有害な分解生成物	:	一酸化炭素、硫黄酸化物。

11. 有害性情報

急性毒性 (経口)	:	飲み込むと有毒 ラット LD50=200 mg/kg
急性毒性 (経皮)	:	分類できない
急性毒性 (吸入)	:	区分に該当しない (気体) 分類できない (蒸気) 吸入すると有害 (粉じん、ミスト) ラット LC50=1.95 mg/L/4h
皮膚腐食性／刺激性	:	重篤な皮膚の薬傷 マウス皮膚に 1 時間適用した刺激性試験において腐食性であるとの結果が得られており、またモルモットを用いた刺激性試験において酸による火傷のような多数の病変(numerous small lesions resembling acid burns)が認められていることから、区分 1 とした。
眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性	:	重篤な眼の損傷 ウサギの眼に対する試験において、腐食性 (corrosive) であるとの結果が得られていることから区分 1 とした。
呼吸器感作性	:	分類できない
皮膚感作性	:	分類できない
生殖細胞変異原性	:	区分に該当しない マウスの強制経口投与による骨髄細胞用いた小核試験(OECD TG474)(in vivo 変異原性試験)において陰性の結果が得られていること、エームス試験(in vitro 変異原性試験)において陰性の結果が得られていることから、区分に該当しないとした。
発がん性	:	分類できない
生殖毒性	:	生殖能又は胎児への悪影響のおそれの疑い ラットおよびマウスの発生毒性試験において、親動物における一般毒性に関する記述がないものの、仔動物において口蓋裂などの異常が認められているため、区分 2 とした。
特定標的臓器毒性(単回ばく露)	:	分類できない
特定標的臓器毒性(反復ばく露)	:	分類できない
誤えん有害性	:	分類できない

12. 環境影響情報

生態毒性

水生環境有害性 短期（急性） : 水生生物に有害
甲殻類(ミジンコ) EC50=12 mg/L/48h
水生環境有害性 長期（慢性） : 区分に該当しない

残留性・分解性

良分解性
BOD : 106%

生体蓄積性

低濃縮性
log Pow : -2.38

土壌中の移動性

追加情報なし

オゾン層への有害性

オゾン層への有害性 : 分類できない

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物 : 燃焼法
スクラバーを具備した焼却炉で焼却処理を行う。

アルカリ法
多量の水または希アルカリ水溶液を加え、放置または撹拌して分解させた後、酸またはアルカリで中和して廃棄する。

または、都道府県知事の許可を得た廃棄物処理業者に委託処理をする。

汚染容器及び包装 : 空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去した後に処分する。

14. 輸送上の注意

国際規制

海上輸送(IMDG)

国連番号（IMDG） : 2586
正式品名（IMDG） : ALKYLSULPHONIC ACIDS, LIQUID
容器等級(IMDG) : III
輸送危険物分類（IMDG） : 8

航空輸送(IATA)

国連番号（IATA） : 2586
正式品名（IATA） : Alkylsulphonic acids, liquid
容器等級（IATA） : III
輸送危険物分類（IATA） : 8

海洋汚染物質 : 非該当

国内規制

陸上規制 : 消防法、毒物及び劇物取締法、道路法の規定に従う。
海上規制情報 : 船舶安全法の規定に従う。
航空規制情報 : 航空法の規定に従う。
その他の情報 : 補足情報なし
緊急時応急措置指針番号 : 153

作成日：2004/01/22
改訂日：2024/10/08

15. 適用法令

国内法令

労働安全衛生法	：	名称等を表示すべき危険物及び有害物（法第５７条第１項、施行令第１８条第２号～第３号、安衛則第３０条別表第２） (2025 年 4 月 1 日以降) 名称等を通知すべき危険物及び有害物（法第５７条の２第１項、施行令第１８条の２第２号～第３号、安衛則第３４条の２別表第２） (2025 年 4 月 1 日以降) メタンスルホン酸 皮膚等障害化学物質等・皮膚刺激性有害物質（安衛則第５９４条の２第１項、令和４年５月３１日基発０５３１第９号、令和５年７月４日基発０７０４第１号・５該当物質の一覧）
毒物及び劇物取締法	：	劇物（指定令第２条） メタンスルホン酸及びこれを含有する製剤
消防法	：	第４類引火性液体、第四石油類水溶性液体（法第２条第７項危険物別表第１・第４類）
船舶安全法	：	腐食性物質（危規則第２，３条危険物告示別表第１）
航空法	：	腐食性物質（施行規則第１９４条危険物告示別表第１）
港則法	：	その他の危険物・腐食性物質（法第２１条第２項、規則第１２条、危険物の種類を定める告示別表）
道路法	：	車両の通行の制限（施行令第１９条の１３、（独）日本高速道路保有・債務返済機構公示第１２号・別表第２）
化学物質排出把握管理促進法(PRTR 法)	：	非該当

16. その他の情報

参考文献	：	NITE 化学物質総合情報提供システム（NITE-CHRIP)、独立行政法人製品評価技術基盤機構。 最新毒物劇物取扱の手引　古賀元監修　毒物劇物安全対策研究会編　時事通信社（2001）。 化学大辞典　共立出版社（1963）。 17524 の化学商品、化学工業日報社（2024）。

＊この安全データシートは、各種の文献などに基づいて作成していますが、必ずしもすべての情報を網羅しているものではありませんので、取り扱いには充分注意して下さい。なお、注意事項は通常の取扱いを対象としたものであり、特殊な取り扱いをする場合には、その用途・用法に適した安全対策を実施して下さい。また、含有量、物理／化学的性質、危険有害性などの記載内容は、情報提供であり、いかなる保証をなすものではありません。この安全データシート(SDS)は、JIS Z7253 に基づいて作成しております。